

- りにして』『人口問題研究』第58巻2号, pp. 2-21.
- 田中重人 (1998) "Dynamics of Occupational Segregation and the Sexual Division of Labor: A Consequence of Feminization of White-Collar Work", 佐藤嘉倫編『1995年SSM調査シリーズ3: 社会移動とキャリア分析』1995年SSM調査研究会, pp. 85-122.
- 内閣府編(2002a)『国民生活白書(平成13年版)』ぎょうせい。
- 内閣府編(2002b)『男女共同参画白書(平成14年版)』財務省印刷局。
- 永瀬伸子(1998)「少子化に関するインタビュー調査の分析: 子供には手をかけたかったので結婚と出産を遅らせる」『経済論集』[東洋大学], 第24巻1号, pp.45-69.
- 永瀬伸子(1999)「少子化の要因: 就業環境か価値観の変化か: 既婚者の就業形態選択と出産時期の選択」『人口問題研究』第55巻2号, p. 1-18.
- 樋口美雄(1994)「育児休業制度の実証分析」社会保障研究所『現代家族と社会保障: 結婚・出生・育児』東京大学出版会, pp.181-204.
- 樋口美雄, 阿部正浩, Waldfogel, Jane (1997)「日米英における育児休業・出産休業制度と女性就業」『人口問題研究』第53巻4号, p. 49-66.
- 廣嶋清志(1981)「現代日本の育児環境と出生力」『人口問題研究』第158号, pp. 11-45.
- 前田信彦(1998)「家族のライフサイクルと女性の就業: 同居親の有無とその年齢効果」『日本労働研究雑誌』第459号, pp. 25-38.
- 森田陽子, 金子能宏 (1998)「育児休業制度の普及と女性雇用者の勤続年数」『日本労働研究雑誌』第459号, pp. 50-62.

表1 調査結果の概要1: 調査対象者の属性

カップル番号	①		②		③		④	
調査対象者番号	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
現在の勤務先	財団法人	大学院博士課程在籍中	民間企業(情報関連)	独立行政法人	民間企業(製造業)	民間企業(銀行)	民間企業(マスコミ)	民間企業(マスコミ)
職種・職掌	事務職	大学院生	コースなし	研究職	準総合職	総合職	専門職	専門職
結婚・同居開始時期	2001		1999		1996		2001	
就職何年目: 0内は離職職者の初職就職からの年次	6 (15)	在学中 (8)	11	3	4	4	9	8
子どもの人数	1		1		1		1	
子どもの年齢、誕生時期、結婚何年目か: 2人いるときはそれぞれについて	0歳、2002.6、2年目		0歳、2002.7、4年目		0歳、2002.2、6年目		1歳、2001.10、1年目	
就職何年目: 2人いるときはそれぞれについて: 0内は離職職者の初職就職からの年次	7 (16)	在学中 (8)	14	2 (6)	9	9	9	8
年齢	34	34	32	32	32	32	32	33
学歴 (中退を含む)	大学	大学院博士課程在籍中	大学	大学院	大学	大学	大学	大学
最終学歴卒業年	1998	大学院博士課程在籍中	1993	1997	1993	1993	1993	1994
初職就職年	1987(高校卒業後)	1992(留学後)	1993	1997	1993	1993	1993	1994

表1 調査結果の概要1: 調査対象者の属性(続き)

カップル番号	⑤		⑥		⑦		⑧	
調査対象者番号	<9>	<10>	<11>	<12>	<13>	<14>	<15>	<16>
現在の勤務先	民間企業 (製造業)	民間企業 (製造業)	民間企業 (製造業)	民間企業 (コンピュータ)	地方公務員	地方公務員	民間企業 (シンクタンク)	民間企業 (商社)
職種・職掌	技術職	技術職	一般職	コースなし	専門職	事務職	研究職	総合職
結婚・同居開始時期	1996		1997		2000		2001	
就職何年目：離転職経験がある場合には0内に初職就職から何年目か	2	11	5	2(4)	3	3	4	6
子どもの人数	2		2		1		1	
子どもの年齢、誕生時期、結婚何年目か：2人以上いるときはそれぞれについて	4歳、1998.9、3年目；0歳、2002.7、7年目		3歳、1999.9、3年目；0歳、2002.5、6年目		0歳、2002.5、3年目		0歳、2002.8、2年目	
就職何年目：2人いるときはそれぞれについて：0内は離転職者の初職就職からの年次	4；8	13；17	7；10	6(8)；1(11)	3	3	4	6
年齢	32	41	32	31	30	31	29	29
学歴(中退を含む)	大学院	大学院	大学	専門学校	大学院	大学	大学院	大学
最終学歴卒業年	1995	1986	1993	1992	1998	1995	1998	1996
初職就職年	1995	1986	1993	1992	1998	1998	1998	1996

表2-1 調査結果の概要2-1: 結婚関連項目その1

カップル番号	①		②		③		④	
調査対象者番号	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
結婚の契機	学校		学校		学校		職場	
自分が働くことについての展望	変えるつもりなし		東京で働いている限りはお互いに好みに働いて遊んでいればいい		仕事が面白くなった。両立が難しいほどでもなかった。収入も必要なので辞めるつもりなし		はじめは早く帰ろうとしたが仕事柄そうできない。銀行をやめるつもりはないし変えようがない	
本人の働き方についての配偶者の希望			働いてほしい		転職すればいいのに		仕事は続ける。特に変えるつもりなし	
配偶者の働き方についての本人の希望	自分は学生だからやめてほしいということはない。相手は民間企業ではなく定時で帰りやすいので仕事の仕方を変えてほしいとも思わなかった		相手には働いてほしい。相手の性格的からいっても外に出ているのが向いている					

表2-1 調査結果の概要2-1: 結婚関連項目その1(続き)

カップル番号	⑤		⑥		⑦		⑧	
調査対象者番号	<9>	<10>	<11>	<12>	<13>	<14>	<15>	<16>
結婚の契機	サークル		学校		職場		学校	
自分が働くことについての展望	結婚して退職する時代ではないと思っていたし、職場の環境もそうだった		行けるところまで行けばいいと思った		結婚でやめようとは思わなかったが、子どもが生まれて両立することは想像つかず皆どうしているんだろうと思っていた		やめるなどとは考えなかった。職場の人も出産により自分が辞めることは考えていないように思う	
本人の働き方についての配偶者の希望	働くのは反対。相手のほうは母妹とも専業主婦。いろいろ話したら、まあ好きにしたらという感じ		家業が自分の代になるまでは仕事を続けてほしいと頼まれた		続けてほしい			
配偶者の働き方についての本人の希望	はじめは働かなくてもいいのと思ったが、相手がそう思うようにやればいいと思い、覚悟した		仕事をしたいのだからやるからには定年までがんばりなさいと思った		家がほしいこともあり、やめないうでほしいと思っていた			

表2-2 調査結果の概要2-2: 結婚関連項目その2

カップル番号	①		②		③		④	
調査対象者番号	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
本人の働き方(出社・帰宅時間、出張、休日出勤の有無)	定時が基本		9時から20～21時まで仕事。忙しい時期は泊まりも。通勤片道30分	あまり変わらなかったが、年に300日泊り込む生活から、2時3時でも帰るようになった	忙しいときには20～21時まで働いたり、土曜日に休日出勤したりすることも	7:45に出社し19:30～20:00まで働く。遅い時には21:00まで働く。通勤片道1時間、土日は休み	それまでは部署の仕事の性質上、深夜まで働いていたが、同居を始めたときには妊娠していたので深夜の仕事は免除され	
配偶者の働き方(出社・帰宅時間、出張、休日出勤の有無)	泊まりもあり		朝はゆっくりだが深夜まで。土日も夜だけ行くことも	遅かった	7時に出て22時に帰ってくる		遅くまで仕事	妊娠中だったのであまり遅くまでは働いていなかった
家事の内容と分担の仕方	比重では相手が多い。週2,3回は外食していたが、家で食べるならほとんど相手を作った。掃除は半分ずつ位。洗濯は6:4位		平日は何もなし。休日に掃除と洗濯。相手が寝ている間にやる	平日はお互い外食で、家事もなし。掃除洗濯は土日に二人で。ごみ捨ては自分がやる	ごみ出しは相手。平日は相手は食べてくる。土日の皿洗いは相手。土日の買い物、洗濯干しのは一緒に	土日には食器洗いと洗濯。平日はお互い別々な感じでやっていた	平日は自分の分の食事だけ。相手は3食とも外で食べてくる。洗濯は7:3くらいに分担で週に1回くらい	基本的に二人とも食事は家でしない。洗濯・掃除は相手に頼んでやってもらった。休みの日にはたまに本人もやった。全体で見ると8:2で相手が多かった
配偶者の働き方、家事分担に対してどう思っていたか	気にならな		土日くらい起きていてほしいが、忙しいから仕方ない、とあきらめてもいた	2人しかいないと食事を作ってもかえって無駄だし、お互い忙しくて家事に時間を使わないことに慣れていたのでそれでよかった	仕方ない	子どもが生まれるまではずっと働くだろうと思っていた。平日は別々で家事はなかったし、自分のペースでやっていた。くれたほうが楽だった	自分の家事分担が多いのはたまたま妊娠中であまり遅くまで働かないので時間があってやらないといけないから相手がやってしまう	申し訳ないとは思いますが相手は妊娠中であまり遅くまで働かないので時間があってやらないといけないから相手がやってしまう
配偶者は本人の働き方、家事分担に対してどういう反応を示していたか	気にしてないと思う		帰りが遅いことについては却って気楽だったろうし、家事について細かく言う人ではない	家にいてとは言われたが、家事をしてとは言われなかった	絶対に何も言わない	不満半分、あきらめ半分だったのでは。平日については家事をしろと言われたことはないが、土日についてはずっとやれと言われ続けている	早く帰っているんだから、やっていいじゃないかという風があった。ありがたいといういわない	不満だったかもしれない。もっとやれといわれていた

表2-2 調査結果の概要2-2: 結婚関連項目その2 (続き)

カップル番号	⑤		⑥		⑦		⑧			
調査対象者番号	<9>	<10>	<11>	<12>	<13>	<14>	<15>	<16>		
本人の働き方(出社・帰宅時間、出張、休日出勤の有無)	納期前は終電帰り、土日はどちらかは休日出勤が当たり前だった。納期は3ヶ月に一度くらいのペースである		当初は勤務先まで遠く、帰宅は定時にしても20時、忙しいと21時になっていた		作業の区切りがつくまでは夜中の2時でも3時でも会社になっていた		当初は残業も多く、普通は19時、忙しいと22時～23時。異動後は朝7:30に出て、定時だと18時、残業すると20時くらいに帰る		9時に出て22時に帰る。一番忙しいときにはタクシー帰りもあるが、均せば20時頃帰れる。早く帰ろうとした。土日は仕事しないよう平日に仕事をする	
配偶者の働き方(出社・帰宅時間、出張、休日出勤の有無)	結構働いていた		20時くらいに帰っていた		職場が遠かったのがまだ自分が寝ている間に外に出かけていた		もつと遅かった			
家事の内容と分担の仕方	昼食用のお弁当は自分が二人分作る。洗濯は毎日自分。掃除は土日もほとんどしない。自分が係を割り振って、相手には掃除をしてもらっていたと思う		平日は圧倒的に相手。掃除洗濯は土日にすることにして自分。外食も多かった。DINKSの生活		買い物は仕事帰りに自分。食事の準備は自分のほうが多かった。22時を過ぎたら外食。掃除洗濯は早く帰ったほう。このくらいは普通のことだと思う		朝食はそれぞれ。平日の半分は夕食を家で取るのが目標で料理は半分ずつ分担していた。洗濯と掃除は休みの日にまとめて二人でやる		相手は外食、自分の分は簡単なものを作っていた。掃除や洗濯は全部自分がやっていた	
配偶者の働き方、家事分担に対してどう思っていたか	二人とも独立してやっけていてそれでいいと思っていた。早く帰ってきてほしいなどは思わなかった。		平日は相手のほうが早く帰ってくるし、手の空いたほうがやるしかないから仕方ない		早く帰ってくるよりも稼いでくれると思う。ただ、自分のほうが家事の比重が多いので、土日はきちんと分担する、と思った		相手の職場が遠かったのでも思いますが、自分が食事を作ることになるのが決し嫌。出来合いのものは嫌だということ、たまにはいいじゃないか、と思った		相手の方が家にいる時間が長いので、家にいる時間と家事の比率を考えれば向こうのほうが家事を多くしている、比率としては同じ	
配偶者は本人の働き方、家事分担に対してどういう反応を示していたか	お弁当はうれしそうだった				もつと家事をしてほしい		不満だったと思うが、自分は家にいないのでできないという点でバランスが取れていたのではないかと			

表3 調査結果の概要3: 出産関連項目

カップル番号	①		②		③		④	
調査対象者番号	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
子どもを持つ選択をした経緯	<p>生む経験がしたい。子どもを持つことができるとは区切りがあるので早く子どもがほしかった</p>		<p>しばらく二人の生活を楽しんだし、年齢的にそろそろと思った</p>		<p>昇格のタイミングを考えてそろそろと思った</p>		<p>以前から子どもだけはほしかった</p>	
自分が働くことについての展望(いつまで働くか、働き方を変えるつもりがあるか)	<p>続けるつもり</p>		<p>回りも育休を取って復帰しているし、復帰後の仕事も配慮されているようだし、やり方によってはそれほどきつい仕事でもないのでもそのまま働く</p>		<p>子どもが無事に生まれるか分からぬので、無事に生まれる前に仕事をやめるという選択はなかった。とりあえず育休を取って、先のことは考えよう</p>		<p>育児休業は取得するが1年で復帰する</p>	
本人の働き方についての配偶者の希望			<p>それまでの朝晩なく仕事をしていく生活を規則正しいものに変え、夜はきっちり家に帰り、できることをする。二人ともなるべく仕事を続けようという自分の仕事を緩めていくつもり</p>		<p>そのままの働き方でいく。地方転勤中だったが、自分の母親が育休を助けていたし、相手もまず1年は育児休業を取るといっていたので、あまり先を考えると先を考えると</p>		<p>二人とも深夜まで働いていたので、どちらかが変えなければいけないと思った</p>	
配偶者の働き方についての本人の希望			<p>話し合いは特になかったが、どちらともなく仕事は続けることになった。相手は自分が外に出るのが好きな性格であることと相手の仕事選びの選択肢を広げるため仕事をしたいと思っていたと思う</p>		<p>出世はあきらめて楽な道をいけとずっといわれている</p>		<p>いつも相手が引いてくれる</p>	
			<p>仕事柄、仕事時間が長いのは仕方がない</p>					
			<p>働いてほしい</p>					

表3 調査結果の概要3: 出産関連項目(続き)

カップル番号	⑤		⑥		⑦		⑧	
調査対象者番号	<9>	<10>	<11>	<12>	<13>	<14>	<15>	<16>
子どもを持つ選択をした経緯	相手はすぐにもほしかった。自分は結婚してすぐにはほしくなかったが、結婚からしばらくたったので、積極的にほしいというのではないがそろそろかとも思っていた		二人とも自然な成り行きだが、二人目の時には、相手の会社が合併するタイミングを少し考えた		自分は結婚したらすぐほしかったが、相手は結婚してしばらくは様子を見たほうがいいといった		相手はすぐにほしがったが、自分の趣味のために1年待ってもらった	
自分が働くことについての展望(いつまで働くか、働き方を変えるつもりがあるか)	自分の労働時間が長いので復帰についての完璧な自信はなかったが、そうはいってもやめるつもりもなかった		職場の雰囲気と相手の後押しで続けることに		とりあえず産休と育休で1年のんびり休める、その後のことはそのとき考えようと思った		仕事をやめるとは思っていなかったが、復職できるかには保育所、子どもの状態など、自分自身で決められない要素がある。そういうものが皆クリアできれば復職する	
本人の働き方についての配偶者の希望					金銭面でも働いてほしいし、本人の性格からいっても働いているほうがよい		食事は各自済ませる。最低限の手伝いは行う	
配偶者の働き方についての本人の希望			仕事を面白いという働いているし、自営業はリスクがあるので辞める必要はないと思った		働いてほしい			

表4-1 調査結果の概要4-1: 育児休業関連項目その1

カップル番号	①		②		③		④	
調査対象者番号	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
休業の時期 (2人以上いるときはそれぞれについて)	~2003.5下旬		~2003.4.末		~2003.1末		~2002.8末	~2003.3末
期間決定の理由	丸1年取得予定だったが保育園に入れるために繰上げた		保育園。少しでも入りやすくするために今は4.1復帰で申請しているが、保育所の入所が決まったら4末までの取得に変更するつもり		もう少し早く復帰してもよかったが保育園がその時期からしか預かってくれなかった。その時期でも預かってくれるところを探すのは大変だった		人事異動の時期にあわせて復帰するのがスムーズだが、出産後、最初の人事異動の時期である生後半年では子どもが小さくて大変。制度上はあと半年取れるがこれ以上休んで仕事の勘が鈍るのが怖いので復帰	
育児休業を取得するまでの経緯	やめるつもりなし。経済力を持っていたいし扶養されるのが普通とは思われない。夫が学生。公然と休める機会なので取得したかった		離転職の意志なし。周りに子どもがいて勤め続けている実績がでてきていた		離転職の意志なし。正社員でもあるという発想はなく、やめるにはもったいないポジション。当然、育児休業を取る。相手が地方に転勤していたので育児休業中はそこに行く		自分が育児休業をとるという発想はなく、最初から相手が取ると思っていた。相手もそうだと思う。職場で育児休業を取ると聞いていたことがない	
配偶者が取得する可能性の有無	そのような発想はなかった		まったく検討せず。自分は管理職になる気もないし子どもを持つ時点でブランクができるのは覚悟の上だが、相手についてはブランクができるのが不安		考えなかった。相手は総合職なので相手のキャリアが優先		相手の会社の社風と相手のマインドを考え合わせると相手が取るとは考えられなかった	
							制度上可能な期間で、そこまで休むと新年度になり、保育所に預けやすくなる	
							半年の休業でも勘という点では不安だが、相手の復帰時に保育所が利用できず、他の方法がないので取得。一月ほど悩んだが、切羽詰って決めた。相手は喜んだ。相手の取得については話し合いはなく決まっていた	
							相手は取得済みで、保育所が利用できなかった	

表4-1 調査結果の概要4-1: 育児休業関連項目その1(続き)

カップル番号	⑤		⑥		⑦		⑧	
調査対象者番号	<9>	<10>	<11>	<12>	<13>	<14>	<15>	<16>
休業の時期 (2人以上いるときはそれぞれについて)	~1999.7下旬; ~2002.4.下旬		~2000.9; ~2003.5		~2003.5上旬		~2004.3末	
期間決定の理由	1人目のときは、バックアップはするから早く復帰しなさいという自分の母親からのプレッシャー。2人目のときは保育所入所の時期を考えて		職場が子どもが生まれたら1年休んで帰ってくるという感じだった		制度上可能な期間		1人目は1年か 思っていたが、 育児休業を取得 したことがある会 社の先輩に「1年 しか取らないの」 といわれ、保育 所入所のことを 考えて、1年を越 えた最初の4月 まで。子どもが3 歳までは会社の 制度で休業でき るが、これ以上 休むと、仕事の モードに切り替 えられるかが心 配	
育児休業を取得するまでの経緯	せっかく積み上げたキャリアは中断されるが、やり直す自信はある		自分の職場が「休んで帰ってくる」という雰囲気だった		まず休んで、復帰できるかはその場になって考える		復職することが 当たり前だと思 った。仕事は食 べていくための 手段でもあるし、 社会とのつなが りや社会貢献の 手段でもある  食事は各自済 ませる。最低 限の手伝いは 行う	
配偶者が取得する可能性の有無	考えたこともない。テレビを見ながら子どもと過ごしそうなので任せられない		そのような状況ではなかった		相手は取りたがっていたが、自分が取りたかったので却下した			

表4-2 調査結果の概要4-2: 育児休業関連項目その2

カップル番号	①		②		③		④	
調査対象者番号	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
<p>会社における育児休業取得者の実績（育児休業の取りやすさ）</p> <p>申し出をしたときの職場（上司、同僚）の反応</p> <p>本人が育児休業を取得している間の人員配置（本人の仕事がどのように引き継いだか）</p>	<p>初めてのケース。好意的</p> <p>事務局長に報告。「あ、そうですか」と受け入れられた</p> <p>派遣</p>	<p>ここ数年でばたばた増えている</p> <p>すぐには後任が見からない仕事をだったので上司ははじめお葬式のように、「しばらくして「おめでとう」といった。職場は男性が多く、気遣ってくれ、仕事量はだんだん減った</p> <p>大きな仕事は新規採用者と入社年次の若い女性社員に振り分け、こまごました仕事は分担表を本人が作り職場の若手全員に割り振る</p>	<p>かなりいる。法律で決まったことは文句を言っても仕方ないから守る会社</p> <p>上司に報告すると「まずはおめでとうといいたい」といって話を進めた</p> <p>周囲に割り振った。引継ぎマニュアルを作った</p>	<p>他の部署では多数の例があり、男性の育児取得者も複数いるが、本人の部署では前例がなかった</p> <p>上司は表向き平然としていたが実は驚いたらしい。子どもができて仕事ができなくなるという発想がない職場。部長が非常にリベラルで、「そういうこともあるだろう、無理はさせないように」として淡々と受け入れ。職場でもこのようなことに不満は言わない趣向を貫く社風</p> <p>担当がえの時に休みに入った</p>	<p>私生活を犠牲にして働くのが当たり前という感じ。子どもがいるから早く帰りたいとはなかなか言い出せない。女性の育児休業取得は珍しくもないが男性は本人がはじめて</p> <p>上司に取りたいといったら、「いいよ、いつからいつまで」といわれた。周囲も理性的に受け止めてくれた</p> <p>担当がえの時に休みに入った</p>			

表4-2 調査結果の概要4-2: 育児休業関連項目その2 (続き)

カップル番号	⑤		⑥		⑦		⑧	
調査対象者番号	<9>	<10>	<11>	<12>	<13>	<14>	<15>	<16>
会社における育児休業取得者の実績 (育児休業の取りやすさ)	部署に複数の取得例があった。ただし、本人ほど若いケースははじめて		部署に複数の取得例があった		職場で前例はなかったが、好意的に受け入れられた		事務職では取得者も多いらしいがよく知らない。研究職ではまだ少ないが、たまたま身近にいた	
申し出をしたときの職場 (上司、同僚) の反応	上司に報告すると「あ、そう。いつから休む」		一人目; 上司に報告すると、「仕事はどうするの」といわれ、「育児休業をとって続ける」といったら、「分かりました」。二人目; 「戻ってくるんだよね、いつまで」		取組ミーティングで報告すると「代わりを探すのは大変だけど、戻ってくるのでしよう」と皆が言ってくれた。上司が規則をすぐに調べてくれて、してはいけない仕事とできる仕事をはっきり分けてくれた		上司にいうと、忙しいのはよくないからといってすぐに仕事を半分減らしてくれた。上司の身近に妊娠のときに体調が悪くなった人がいたため妊娠が大変なことを上司はわかっていた	
本人が育児休業を取得している間の人員配置 (本人の仕事がどのように引き継いだか)	最終段階の仕事がひとつ残っていたので、同僚に引き継いだ		派遣社員		仕事のやり方が変わり、業務量が増えた時期とも重なったため、正職員が一人増えたほか、臨時職員が増えた		新規プロジェクトにあまり入らないようにしたほか、継続するプロジェクトについては部内で引き継いだ 食事は各自済ませる。最低限の手伝いは行う	

表4-3 調査結果の概要4-3: 育児休業関連項目その3

カップル番号	①		②		③		④	
調査対象者番号	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
育児休業取得中の会社とのコミュニケーションの有無、内容	あまりない。休業期間について相談を行った		同僚からメールがくるほか社内報などの連絡がメールや郵便で定期的に来る		1月から2月に一度くらい部の仕事の状況を知らせるメールがくる		復帰の前に上司と復帰後に働くことのできる時間について話した	
復帰後の仕事の見通し	原職		復帰1月前に電話で復帰の時期・復帰後の勤務時間についての確認があるが、そのときに部署の希望も聞かれるらしい		<p>へた。天助してもいいといっている。原職は10年やっているので仕事の幅という点からも異動してもいいし、原職復帰でなくても上司をうらまない。育児中は異動して残業のない仕事がいい</p>		すでに復帰。原職場に復帰し、職場内で夜遅くまでやらなくてもいい仕事に変わった	
休業取得による昇進・昇格の遅れ	昇給が1年遅れる。当然では		休んだ分は遅れるはずだがまだ昇格にかかる年齢の取得者が出ていないのでそれ以上遅れるかは分からない		2年は遅れる。残業もできないし、いざと言うときの保険と引き換えと考えれば仕方ない		なし。前に育児休業を取得して昇給が遅れた人が会社に抗議して改善された	

特になし

原職

影響しないはず

表4-3 調査結果の概要4-3: 育児休業関連項目その3 (続き)

カップル番号	⑤		⑥		⑦		⑧	
調査対象者番号	<9>	<10>	<11>	<12>	<13>	<14>	<15>	<16>
育児休業取得中の会社とのコミュニケーションの有無、内容	同僚が部の仕事の状況を知らせてくれていた		配布物をよく送ってもらっていた		復帰後の働き方についての問い合わせが来たり、職場の集まりに呼んでくれたりしている		社内報や人事評価に関する連絡が来る。インターネットで会社のイントラにリモートアクセスできる。ときどき職場の人と連絡を取る	
復帰後の仕事の見通し	原職		一人目のときは電話で話して原職ということでスムーズに合意。今度も原職の予定		原職。ローテーション勤務などにも加わりたいと思っている		原職	
休業取得による昇進・昇格の遅れ	休んだ期間以上に昇格が遅れている。ひどくこだわった時期もある		休んだ分だけ遅れる				人事システムが変わったばかりなのでよく分からない部分もあるが、特に影響しないはず 食事は各自済ませる。最低限の手伝いは行う	

表4-4 調査結果の概要4-4: 育児休業関連項目その4

カップル番号	①		②		③		④	
調査対象者番号	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
育児休業非取得者の働き方(出社・帰宅時間、出張、休日出勤の有無)	早めに帰ってくるようになった	大学に行く日は夜中になる。アルバイトの日は夕方まで。土日に大学に行くことも多い	早く帰ってくるようになった	とても変わった。1日おきくらいには20時には帰るようにしている。土日も仕事はするが家でやる	6時に出て23時に帰ってくる。通勤が遠くなった分だけ遅くなった	7:30-22:00まで仕事。通勤に90分。仕事が変わってきた	自分の育児休業中は、相手に当事者意識がなく、朝早くから深夜まで働いていた	変わらず。早朝から夜半過ぎまで
家事分担(分担の仕方、平日、休日)	家にいればしてくれる。気分的には6対4。オムツ替え、洗濯をしてくれる。食事は自分が作る	半々よりは相手のほうが多い。特に食事の支度は相手。自分の研究が優先されている	家事全体の量も増えているが、相手が増えている	家にいれば風呂入れと寝かしつけ。二人いるときは一方が子どもをみて他方が家事をする。自分の分担は平日10%、休日50%、ならば30%	相手はまずやっていない。土日のお風呂入れは相手、オムツ換えはじゃんけん	相手が育児休業中なのであまりやらない。土日にお風呂を入れたりするが、疲れているためか離乳食の作り方を覚えるといわれてもやる気は出ない	本人の育児休業中は相手はしなかった。相手が育児専門家の今は8:2くらいで相手がしている	相手の取得中はまったくやらない。土日にお風呂入れ、風呂掃除、洗濯、たまたに洗濯、掃除。今は9.8対0.2で自分
配偶者の働き方、家事・育児分担に対してどう思っていたか	ありがたい。普通のサラリーマンよりはいいほうでは		相手が増えている	育児は女性の負担が大きい。家事の量は増えたが、一人でやると大変な割に自分が後回しになって大変そうだしかわいそう	平日は相手がいるとご飯を作らないといけないうまいからいまいというより会社が悪い。さもないと体持たないのだから仕方ない	本育児中は、なぜやらない、圧倒的に損、シングルマザーのほうに楽と思う。今は子どもは懐いているし、相手もできるだけやっているから不満は極力いわない	以前は申し訳ない、やらなくてはいけぬ負担感。今は、相手は仕事をしているのだから家事や育児をとほ思わない。そのために自分が休んでいるのだからしかたない	
配偶者は本人の働き方、家事・育児分担に対してどういう反応を示していたか			家事について細かく言う人ではない	早く起きろとは思っているかもしれないが、特にはないと思う	絶対に何も言わない。大変だとは理解していると思う	本人の育児休業中は、本人が家事をするのは当然と思っていた	以前は仕事の性質上仕方ないと理解しながらも、もっと早く帰ってきて、なぜ私ばかりがやるのか、と言っていた。今自分がしていることについては当然と思っ	

表4-4 調査結果の概要4-4: 育児休業関連項目その4 (続き)

カップル番号	⑤		⑥		⑦		⑧	
調査対象者番号	<9>	<10>	<11>	<12>	<13>	<14>	<15>	<16>
育児休業非取得者の働き方(出社・帰宅時間、出張、休日出勤の有無)	一時期より早い	子どもができて無理はしなくなった。早く帰ろうとするようになった。20~21時に帰ってくる		遅いときには1時や2時になることもあるが、早く帰れるときもある		7時半頃に家を出て定時だと18時に帰ってくる。残業も時々あるが、19時から20時には帰ってこられる。早く帰ってくるようにしている	比較的早く帰ってくるようになった。22時くらいで早いと21時ごろ。土日は家で勉強している	朝早く行き、なるべく早く帰るようにしている。7:50に会社について21~22時に帰宅する。夕食を外食しなくなった分、早く帰ることができる
家事分担(分担の仕方、平日、休日)	育児は自分だが、朝食は相手が自分で食べていく。土日に水回りの掃除、皿洗い、洗濯、上の子どもの相手	掃除、洗濯、皿洗い、朝食の準備。土日に上の子どもの相手			仕事が休みの時には夕食は相手に作ってもらう	平日は相手がお風呂は子どもと一緒に入り、ミルクをあげて寝かしつける。土日は一緒に掃除、洗濯をして、食事は自分が作る	自分がやっている。相手がやるのはゴミ出しとたまに風呂掃除。土日は子どもと遊んでくれる	相手がしている。自分は朝のゴミ出しとたまに風呂掃除をするだけ
配偶者の働き方、家事・育児分担に対してどう思っていたか	まあこんなもの	自分のほうが多いのではという不満を持ちつつ、家事はルーティン業務だが子育てはひどく大変なことなのかも思っていた。最近では相手が上の子どもの勉強に時間を割いておりいいバランス	自営業なのだからもっと融通が利かないのかと思った。手際がよいのでどうやってやっているのだろうと思う		相手が外で働くのと自分が家で育児をするのは対等なのだから、家にいるから自分が家事をするのが当然と思わずやってほしい	相手のレベルに合わせるのが難しい。仕事は昼休みしか休めないけれど、育児は実家に帰ったりすれば少しは手が空く分、楽かと思う。こちらは仕事もしているというのを考えてほしい	相手が子どもと遊んでくれると、自分に時間ができるので、家事をやってもらい助かる	食事は各自済ませる。最低限の手伝いは行う
配偶者は本人の働き方、家事・育児分担に対してどういう反応を示していたか			言ったらきかないと思っているのでは			もっとやってと欲しいいう		仕事で疲れているのは分かるが、もう少し家事を分担してほしいと言われる

表5-1 調査結果の概要5-1: 復帰後の予定関連項目その1

カップル番号	①		②		③		④	
調査対象者番号	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
利用予定の育児資源	<p>公立保育園(9:00-18:15:0歳児、-19:00:1歳児)、育児時間は制度としてはないが、0歳児の間は迎えに間に合わせるために20分早く帰宅する。本人が送り迎え</p> <p>送りは相手、迎えは適宜</p>		<p>公立保育園(-18:10:0歳児)。1歳児クラスになるまでは1日1時間の時短を利用。送りは自分、迎えも基本的には自分がするつもりだが、任せられる日は相手に任せても考えている</p> <p>送り迎えは基本的に相手に頼る。送りはできると思うが迎えは頼むことになる</p>		<p>保育所(8:30-18:30)。送りは自分。相手の母親が援助を申し出てくれるので週2回は迎えを頼む。最初は育児時間をとる。相手は人数に入っていない</p> <p>保育園への送り迎えは難しい</p>		<p>保育所に預け、20:00までには自分が送り迎えをする</p> <p>送りは自分。迎えは当面は相手だが、毎回は頼めないだろう。双方の親は遠い。必要時にはベビーシッター</p>	
決定の経緯	<p>配偶者に頼むことは念頭になかった。話し合いもなし</p>		<p>お互いの仕事を優先し、子どもと長くいられるように選択すると、親の近くに住んで親に頼るよりも保育園となった</p>		<p>相手の母親が援助を申し出てくれ、30分自分の親も何かあれば助けてもらえる距離</p> <p>お互い働いており、お互い働いてお互いに頼らなければならないと思う</p>		<p>相手はしばらく部署を変われないと思う。しばらくは自分の過重負担になるが、相手も育児休業を取得したのでしばらくは仕方ない</p>	
子どもが病気をしたときの体制(予定、配偶者の対応可能性)	<p>まず自分か夫。だめならどちらかの母親。夫の母親から協力の申し出</p> <p>学生のままなら自分が対応したいが就職するかもしれない。そのときにはどちらかの母親を呼ばばいい</p>		<p>まず自分、次に相手、だめなら相手の両親。相手は気軽にフレックスだから対応できると思うといっている</p> <p>自分のほうがフレキシブルに動けるので自分が対応できる分は対応する。長く休むときには祖父母に頼る</p>		<p>自分が休む、半休を取った上で相手の母親に頼むか、時には自分の母に頼む。相手が対応することはない</p> <p>病気のときに病院に連れて行くとかは皆やっているのかは対応できると思う</p>		<p>自分が対応する。どうしても無理なら相手の親に頼む。相手は会社の理解度が低いので多分無理。頼んで立つかから自分がやると思っているほうが楽</p> <p>急な呼び出しに対応できるか、職場の理解かが心配。保育所に預けて1ヶ月だけ共働きをしていたときには自分が対応できた。親も考えている</p>	
育児休業取得による考えの変化	<p>仕事は続けるつもりだが、休んでいたのだから不安</p>						<p>私生活を犠牲にして遅くまで働くのはばからしい</p> <p>育児は大変だが楽しいことが分かった。もっと家庭を大切にしながら働きたいと思うように</p>	

表5-i 調査結果の概要5-1: 復帰後の予定関連項目その1(続き)

カップル番号	⑤		⑥		⑦		⑧			
調査対象者番号	<9>	<10>	<11>	<12>	<13>	<14>	<15>	<16>		
利用予定の 育児資源	一人目は自分の母親に預けた。送りは相手に自分はフレックスを援用し前倒しで働いて迎えにいった。今度は上の子は保育所で決定。上が第一希望に入れば下は母親に。そうでなければ二人とも保育所		一人目の時は年度末までは無認可保育所(8-19)。新年度から公立保育所。黙認でフレックス。30分あとにずらして自分が送り、迎えは連絡を取り合っ て早くいけるほう。時々自分の親に迎えに いってもらい残業した。今度は二人とも近くの保育所		一人目の時は保育所に預け、朝は相手が送り、帰りは連絡を取り合いながら早くいけるほうで迎えに行っていた。どちらもいけないときには祖母に頼んだ		保育所に7時から19時まで預ける。相手のほうが近いので送り迎えともやってもらう。周りに負担がかかるので育児時間はとらない		保育所に8時から19時まで預ける。自分が迎えに行き朝は相手に送ってほしいと考えている。給与が減る代わりに労働時間を減らすことができる育児勤務制度の利用を検討中。早く帰るのに名目ができる	
決定の経緯	暗黙の了解。相手が決めた		保育園だろうと思っていた		保育所。自分が送り迎えする		保育所。19時くらいまでは預けたい。朝自分が預けて帰りは相手に迎えにいてもらうようになるのでは			
子どもが病気をしたときの体制(予定、配偶者の対応可能性)	最初は親に預けて働いていたが、そのうち休むようになった。今度はまず自分が連絡を受けた上で相談する		復職後すぐの決算期に子どもが体調を崩したときには休めなかった。実家に預けて自分もそこから通勤した。相手も忙しくて動けなかった。休めないときには相手の親に来てもらうか、自分の親に預ける		自分はとても抜けられないし休みにくいので病気のときの連絡も相手に行くようにしてある。相手の祖母にも助けてもらおうつもり。相手だけが休む形では心配		自分が帰る。実家が近いので自分の親に頼む。職場の理解があるので自分だけで対応できると思う		食事は各自済ませる。最低限の手伝いは行う	
育児休業取得による考え方の変化	結局、最後に残るのは家族と思うように									

表5-2 調査結果の概要5-2: 復帰後の予定関連項目その2

カップル番号	①		②		③		④	
調査対象者番号	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
将来展望：仕事について	1年休んだので仕事ができるか不安	いくつかの道を優先順位をもちつつ検討中	安心して育てながら働くためには管理部門に異動することも覚悟だが、本当は長く携わっていたひとつ前の職場に戻りたい	地方のよいポジションもあるが、家族と暮らすため、見送っている。まずは現職での成果を挙げる。40歳をめどに大学に移る		今の働き方はおかし。人間らしい生活がしたいので、楽な部署に移ることを考える瞬間もあるが階段を下りる気がして踏み込めない	もう少ししたら異動したい。子育てのことを考えてというのが理由の60%で、適性の面でもほかの部署のほうが良いというのが理由の40%	原職場にこだわりがある。原職場が一番忙しい仕事には対応できないが、仕事によつては8:30-22:00で可能かもしれない仕事もある。頼んでみるつもり
将来展望：両立について	週5日預けて働いても問題ない。子どもが保育園に慣れてくれるか分からない	今は自分が自由のきく仕事を目指しており、相手が働きたいなら自分が自由なスタンスでいられればいいと思う		仕事のペースもつかめ、蓄積もできたので、今までの分、仕事の時間が減ってもやっていける	総合職でなければ残業しなくても両立できる。働いていけば家事を外部化しても許される	そろそろ担当を決めるといわれた。食器洗いと洗濯の担当では、子どもに忘れられないようにしたい。平日に子どもとコミュニケーションを取る時間があるという	20:00に迎えに行くことができればコミュニケーションも取れる	原職場に戻りたいが、育児との兼ね合いがどうか。彼女は頼んで比較早く帰らせてもらおうと欲しているが彼女に全部任せていいのかというのがある
両立にあたっての社会・職場に対する要望	特に考えていないが、漠然とした不安はある	女性が働くことについての世の中の理解不足が変わってほしい	いつでも保育園に入れるようにしてほしい。本当は1年半くらい子どもを見ていたい。週休3日制度があれば職場で気を遣わなくて済むしゆとりが出ると思う	男は仕事を緩められるか、将来展望があるかに依存するが、どちらも難しい。公立保育園は4月にしか入園できなく、産んだ時期で休める期間が決まってしまうのが問題	週休3日や有給休暇をばらけて取れるような制度がほしい。大企業の総合職はサービス残業が前提となっているのが問題。世帯主優遇の福利厚生体制が不満	今の働き方・長時間労働はおかしい。長時間労働をしても残業代もつかず、モチベーションが持たなくなってしまうのかと思う。奪われている気がする	保育施設の充実と当日頼めるベビーシッター。夜中まで働いて当たり前でそこから外れることが難しいのが問題。週休3日より短	両立支援制度の整備は重要だが自分が利用するかは別。仕事の内容からいって日々自分の担当を追わないと難しい。周りに理解してもらってやっていくしかない